令和５年度　学校経営について

佐世保市立福石中学校
校長　堀川　優彦

１　学校教育方針

教育基本法に則り、長崎県及び佐世保市の教育基本方針に基づき、生徒、学校、地域の実態を踏まえ、多くの人に愛され、社会に貢献し、幸福な人生を歩んでいける知・徳・体のバランスの取れた生徒を育成する。

２　校訓

「英知　友愛　正義」

３　校是

「ひとりの子をそまつにする時、教育はその光を失う」

４　学校教育目標

Ⅰ　目標を持ち、自ら考え、判断し、行動できる生徒を育てる。
Ⅱ　互いの人格を尊重し、勤労と奉仕の心を持った生徒を育てる。
Ⅲ　規律を守り、不正を退ける勇気を持った生徒を育てる。

５　学校教育目標達成をめざす学校・生徒・教師像

（１）めざす学校像

①節度あり、明るい挨拶が交わされる学校
②誇りを持ち、大きな声で校歌を歌う学校
③自主性と創造性にあふれ、ひとり一人が輝く学校

（２）めざす生徒像

①節度のある明るい生徒
②物を大切にし、環境美化に努める生徒
③正義感に燃え、清新な心を持つ生徒
④積極的に学習に取り組む生徒
⑤思いやりの心を持ち、良いことは自ら実践する生徒
⑥責任を自覚し、愛校心を持つ生徒

（３）めざす教師像

①生徒を愛し、ともに歩む教師
②自らを磨き、日々成長する教師
③厳しく自己を見つめ、行動する教師
④生徒、保護者、地域から信頼される教師

６　学校経営について

（１）基本理念

学校・教師への信頼を基盤とする。教師間の信頼も欠かせない。教育者としての使命感に徹し、深い教育愛と豊かな指導力を身につけ活力ある指導体制を創り「チーム福石中」となって学校教育目標の具現化の達成に努め生徒を変容させる。

（２）経営理念

①学校教育目標の共通理解と具現化

１）校訓・学校教育目標は、職員・生徒が誰でも言えるようになりたいものである。
２）学校すべての教育活動は校訓と教育目標を達成するためのものである。

３）各自が教科・領域で具現化のための方策を考えて実践する。

②学校は組織体である
１）一人一人が役割を果たしていく。
２）「チーム福石中」を意識して動く。
３）報告・連絡・相談の確実な実行。
４）全職員で進める学校運営。

③学校は生徒のためにある
１）学校は生徒を中心に据え、意図的・計画的に協働し教育目標の実現を図る場である。
２）教育目標を思考し全ての教育活動を通して共通実践することが成果につながる。
３）生徒は、指導によって伸びる、変わることを信念とする。常に誠実な心で生徒に接し、厳しい指導の時ほど丁寧に行う。

（３）教育理念
①教育は人なり
１）学校は人間形成の場であり、生涯教育の基礎を確立する場である。
２）生徒は教師から学ぶ。教師は生徒の変容した姿から学ぶ。～学び続ける姿勢～
３）教育は生徒・保護者・地域の学校（教職員）への信頼の上に成立する。信頼は教師の人間性にかかってくる。真摯に教育に邁進する姿勢が大切である。
②教師は授業で勝負する　厳しく教え、優しく育てる
１）厳しくとは、授業規律を成立させ、全部理解するまで徹底して教えること。
２）優しくとは生徒主体の学習で他と繋がりのある授業展開である。

③個々の生徒を大切にする
１）一人一人の天性（得手不得手、発達障害）に応じて、それぞれ精一杯伸ばす教育が大切である。よく話し合い指導する。
２）天性によって出来不出来があるのは仕方ないが、教師の指導の差で弊害があってはならない。

（４）教職員の使命
①生徒の幸せのために生きている教師
生徒がいて教師がいる。　学校は何のために誰のために

②教育のプロとしての研究と修養を実践する教師～研修以外に教育の王道なし～
１）研修以外に資質向上はない。互いに教育のプロとして切磋琢磨し研修を重ねることにより、「教師力」「学校力」を向上させることができる。
２）穏やかな雰囲気で語り合う職員室であることが生徒の成長に繋がる。
３）自らの健康増進に努め、家族の一員としてその役割を果たす教師でありたい自らの心と体の健康と安らかな家庭が教師としての力量を向上させる。
４）学力向上にこだわりを持ち、教育水準の維持させることが公務員としての責務である。
５）情熱、誠意、謙虚、感謝の心を持つことが教育に携わる者には必要不可欠である。

③郷土を誇れる、郷土を語れる、学校を語れる教師
１）責任感を自覚し、生とともに歩み続けることが大切である。何事にも良い所を見つける習慣を持つこと。
２）誰にでも、何処でも自慢できる生徒を育成すること。

④崇高な使命感と責任感を持つ教師　～服務の厳正～

１）体罰禁止　※業績評価の特記事項の欄に「体罰によらない指導」を明記する。
２）職務専念義務
３）守秘義務（情報管理）
４）信用失墜行為（飲酒運転、セクハラ、金銭関係等）
５）不幸にも事故等がおきた場合は、迅速な報告、事後処理、誠意ある対応をおこなうこと。

7　重点努力事項

常に向上心を持ち続ける生徒の育成→向上心のある学校づくり
福石中学校に向上心の文化を根付かせる。

（１）生徒指導の充実

積極的な生徒指導及び凡事徹底　～素直な心で実践～の継承
この継続が教育目標の具現化に繋がるとともに、学校力を高める

①積極的な生徒指導と特別支援教育の視点に立った生徒指導

目前の問題に対応する課題解決的な指導だけでなく、問題を起こす前の指導を大切にする。また、特別支援教育についての研修を深め、生徒一人一人の実態の理解に根差した指導・支援を実践する。不適切な指導による二次被害を起こさない。

②凡事徹底　より良い福石中学校を作り上げる文化を根付かせる

１）三無一想：無言清掃、無言入退館、無言ゾーン　２分前着席１分間黙想
２）挨拶：感謝の気持ちを持って心から行うこと。例えば声の大きさは人それぞれである。気持ちを込めた挨拶は相手に伝わるものである。やらされる挨拶ではなく心が伝わる挨拶を実践する。
３）服装：清潔で福石中学校生徒にふさわしい服装を心がける。
４）校歌：母校に誇りを持ち愛校心を持って歌う。
５）学習：常に授業に真剣に臨み、家庭においても計画的に学習を行う。

③不登校生徒への対応と改善

１）ＩＣＴ機器の有効活用
２）関係機関との積極的な連携

（２）学力向上に向けた取組の充実

①志を持ち夢を諦めない生徒の育成　～キャリア教育の充実～

１）１０年後の姿を意識させる。そこから逆算して自分のあるべき姿を考えさせる。考えたらそれを行動に移させる。
２）キャリアパスポートの作成と活用。

②積極的な授業改善と自主的な学習態度の育成

１）ほめて人を伸ばす
何事もできたことは称賛すること。ほめられることで自信を持ち自己肯定感が育つ。しいては学習意欲も増し学力も向上する。
２）日課の工夫
落ち着いた雰囲気で１校時の授業に臨む姿勢を養う。
３）計画的な校内研修の実践とＩＣＴ機器の有効活用。
４）家庭学習時間の確保への啓発。

（３）運動が盛んな学校

①部活動の充実。体を動かし運動することで人間性を育てる。
②自らの体力を理解し、日々、健康増進と体力の維持向上に努めさせる。
③部活動ガイドラインに沿った部活動運営。休養も練習（週２回の休養日）。
毎月第３日曜日「家庭の日」は「ノー部活動デー」。

（４）心の教育の推進
①挨拶運動の継続と推進
②青少年赤十字活動　「気づき、考え、実行する」
③道徳教育の充実
　道徳教育は学校全体の教育活動の根幹をなすものである。
④実行委員会活動を中心とした人権教育、平和教育
⑤給食を通した食育の推進

（５）地域との連携
①地域に貢献する学校　～喜ばれ感謝される学校～
　「学校に来てみて良かった」「生徒が来てくれて良かった」
②休業参観、保護者懇談会の充実
③学級通信、各種便りやホームページを活用した積極的な情報発信
④PTA、同窓会、福ろう会、健全育成会、自治協議会等との連携
⑤地域行事への積極的な参加

（６）働き方改革の推進
①意識改革
１）自己の勤務時間及び職務内容の見直し
　※業績評価の特記事項の「学校への提言・その他」の欄に「自己の超過勤務の縮減に向けた取組」を明記する。
２）最終退勤時刻の設定と休暇の積極的・計画的取得
　退勤時刻は１９：３０、年次有給休暇取得１０日を目標とする。
　※年５日の年次有給休暇の確実な取得（労働基準法第３９条第７項）